研究ノート

研究会活動が社会人基礎力とディプロマポリシーに及ぼす影響に関する調査研究

神田　亮　中山　正剛

Research on the effects of study group activities on Fundamental Competencies for Working Persons and diploma policy

Ryo KANDA　Seigo NAKAYAMA

【要　旨】

本研究は、本学短期大学部で30年以上前から活動している研究会活動が社会人基礎力とディプロマポリシーに及ぼす影響についてアンケート調査をもとに検討をした。社会人基礎力の結果では12項目中10項目で研究会に所属している群が高い値を示し、「２．働きかけ力」においては研究会に所属している群が有意に高い値が見られた。また、ディプロマポリシーに関しては、４つの観点すべてにおいて研究会に所属している群の値が高く見られた。

【キーワード】

研究会活動　社会人基礎力　ディプロマポリシー

１．背景

本学短期大学部の初等教育科と保育科（以下、二科）では、30年以上前から研究活動を実施しており、現在も数多くの研究会が活動している。平成25年の所属調査では、二科の研究会所属率は74.9％となっており、およそ４人に３人の学生が所属していることになる。二科の研究会活動は、正課の授業や各種実習以外で子どもと関わる貴重な機会を創出していることより、二科の特色の一つとして学生募集のための広報としても活用されている。

しかし、長い歴史と成果があるにも関わらず、研究会活動が所属学生に及ぼす影響を調査するまでに至っていない。そこで、研究会に所属することで、社会人基礎力の向上やディプロマポリシーの達成に影響を及ぼすか否かの効果測定をアンケート調査とインタビュー調査により明らかにすることを本研究の目的とする。

２．方法

２－１（１）調査対象者

本学短期大学部の初等教育科と保育科に所属する１，２年生に質問紙を配布し記入漏れの回答を除いた401名（有効回答率94.8％）から短大期で研究会に所属しておらず、かつサークル

に所属している者を除いた366名を分析対象とした。平均年齢は19.5±3.6歳であった。

２－１（２）調査時期および手続き

2016年７月下旬から８月上旬にかけて、講義中に個別記入式の質問紙調査を実施した。解答実施前に対象者へ本研究の目的を説明し、回答内容が成績に反映することがないことや、プライバシーが侵害されることはない趣旨の説明をし、倫理面に配慮した。

２－２　質問紙内容

２－２（１）研究会所属調査

現在所属している研究会について該当する研究会名の数字に〇印を記入する問を設定し、さらに、役職（部長・リーダー・会計等）に就いている場合には、研究会名と役職を記入する枠を設置した。

２－２（２）部活動所属調査

対象者がこれまでに所属した経験のある部活動（クラブ活動、サークル活動）について中学校期、高校期、短大期に分け自由記述式で記入し、さらに役職（キャプテン・部長・リーダー・マネージャー等）に就いていた場合は併せて記入させた。

２－２（３）社会人基礎力尺度

経済産業省（2006）によって提案された「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の３領域12項目からなる「社会人基礎力」を使用した。12項目すべてを質問項目として用い、尺度化して使用した。尺度化についてはVisual Analog Scale（以下：VAS）を用い、各質問項目の右側に10cmの線（左端が「まったくない」、右端が「最高にある」）を設置し、現在の自分に最も当てはまる状態のところに縦線を引くように指示し、12項目について尋ねた。

２－２（４）ディプロマポリシー尺度

本学の初等教育科・保育科で卒業までに身につけるべき能力として挙げている４つのディプロマポリシーに対して、VASを用い、各項目の右側に10cmの線（左端が「まったくない」、右端が「最高にある」）を設置し、現在の自分に最も当てはまる状態のところに縦線を引くように指示し、４項目について尋ねた。

２－３　統計処理

結果はすべて平均値±標準偏差で示した。研究会の所属有無の群と社会人基礎力および社会人基礎力の３つの力、ディプロマポリシーの間の比較には、対応の無いt検定を用いた。また、学年別の研究会所属有無とそれぞれの比較には一元配置分散分析を行い比較した。

なお統計解析にはIBM SPSS Statistics22を使用し、有意水準は５％未満とした。

３．結果

（１）研究会所属調査

今回の調査では、11の研究会について所属調査を実施した。１．エプロンシアター研究会、２．授業研究会、３．ふれあい遊び研究会、４．人形劇研究会、５．幼児美術研究会、６．外国文化研究会、７．パネルシアター研究会、８．幼児Canぷ研究会、９．心理ふれあい研究会、10.絵本研究会、11.手作りおもちゃ研究会の11の研究会が現在活動しているが、１～６の研究会は別府キャンパスで活動している。７，８の２つの研究会は別府キャンパス、大分キャンパスの両方で活動しており、別府キャンパスの初等教育科、および大分キャンパスの保育科の学生が所属している。また、９～11の研究会は大分キャンパスで活動している。所属率は、二科合わせると57.4％であり、初等教育科のみでは62.6％、保育科のみでは39.6％であった。

表１．で示す通り、最も多くの学生が所属している研究会は、ふれあい遊び研究会で78名であった。次いで、幼児Canぷ研究会、人形劇研究会、パネルシアター研究会、幼児美術研究会、授業研究会、外国文化研究会、心理ふれあ

資料：配布したアンケート用紙

課外活動と社会人基礎力に関するアンケート

調査ご協力のお願い

本調査は、課外活動と社会人基礎力に関する基礎資料を得ようとするものです。お答えいただいた内容は統計的に処理し個人が特定できる状態で公開しません。また、アンケート回答の結果で成績に及ぼすようなことは絶対にありません。どうかありのままにお答えいただき、調査にご協力くださいますことを心よりお願い申し上げます。

調査責任者：神田亮（保育科）、中山正剛（初等教育科）

調査日：平成 28 年____月____日

学科：初・保　クラス：_____　学籍番号：_____　性別：男　・　女　年齢：_____歳

問 1. 現在、あなたが所属している研究会について数字に○を記入してください。また、役職（部長・リーダー・会計等）に就いている場合は、下の枠に該当する研究会の数字と役職を記入してください。

1．エプロンシアター研究会　2．授業研究会　3．ふれあい遊び研究会　4．人形劇研究会

5．幼児美術研究会　6．外国文化研究会　7．パネルシアター研究会　8．幼児 Can ぷ研究会

9．心理ふれあい研究会　10．絵本研究会　11．手作りおもちゃ研究会

12．研究会に所属していない

例：　3　リーダー　、　4　会計

問 2. これまでに、あなたが活動した経験のある部活動（クラブ活動、サークル活動）についてお尋ねします。例にならい記入してください。また、役職（キャプテン・部長・リーダー・マネージャー等）に就いていた場合は、例にならい部活動（クラブ、サークル）名と役職を記入してください。

例：中学校期　吹奏楽部　バスケ部
　　高校期　バスケ部（キャプテン）
　　短大期　フットサル部（マネージャー）

中学校期：

高 校 期：

短 大 期：

問 3. 以下の各項目に対し、現在の自分に最も当てはまる状態のところに縦線を引いてください(例を参照)。ひとつひとつの質問には深く考え込まず、第一印象を大切にありのままの様子をお答えください。

1．主体性　物事に進んで取り組む力

2．働きかけ力　他人に働きかけ巻き込む力

3．実行力　目的を設定し確実に行動する力

4．課題発見力　現状を分析し目的や課題を明らかにする力

5．計画力　課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

6．想像力　新しい価値を生み出す力

7．発信力　自分の意見をわかりやすく伝える力

8．傾聴力　相手の意見を丁寧に聴く力

9．柔軟性　意見の違いや立場の違いを理解する力

10．状況把握力　自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

11．規律性　社会のルールや人との約束を守る力

12．ストレスコントロール力　ストレスの発生源に対応する力

問 4. 以下の 1〜4 は本学の初等教育科・保育科で卒業までに身につけるべき能力として挙げているもの（ディプロマポリシー）です。現在の自分に最も当てはまる状態のところに縦線を引いてください（例を参照）。ひとつひとつの質問には深く考え込まず、第一印象を大切にありのままの様子をお答えください。

まったくない　　最高にある
例：

1．教育・保育に関する専門的な知識・実践的な技術を身につけている。

まったくない　　最高にある

2．教育・保育に関する問題意識をもち、分析し考察する態度を身につけている。

まったくない　　最高にある

3．教育・保育に必要な、子どもに共感する心が育っている。

まったくない　　最高にある

4．教育・保育に関する専門性を生かし、積極的に社会参加する態度が認められる。

まったくない　　最高にある

問 5. 問 1 で「12．研究会に所属していない」と回答した人以外はお答えください。問 1 で回答した、あなたが所属している研究会についての質問です。研究会の活動頻度とあなた自身の研究会活動への参加状況を該当するものに（　　）内に問 1 で回答した研究会の番号を記入してください。

○研究会自体の活動頻度

（　　）1．週に２回以上
（　　）2．週に１回程度
（　　）3．月に２回程度
（　　）4．月に１回程度
（　　）5．２か月に１回以下

○あなた自身の研究会活動への参加状況

（　　）1．ほぼ毎回参加している
（　　）2．4 回に 3 回程度参加している
（　　）3．2 回に 1 回程度参加している
（　　）4．3 回に 1 回程度参加している
（　　）5．ほとんど参加していない

1．エプロンシアター研究会
2．授業研究会
3．ふれあい遊び研究会
4．人形劇研究会
5．幼児美術研究会
6．外国文化研究会
7．パネルシアター研究会
8．幼児 Can ぶ研究会
9．心理ふれあい研究会
10．絵本研究会
11．手作りおもちゃ研究会

例：

○研究会自体の活動頻度
（ 4 ）1．週に２回以上
（ 3 ）2．週に１回程度
（　）3．月に２回程度
（　）4．月に１回程度
（　）5．２か月に１回以下

○あなた自身の研究会活動への参加状況
（ 3、4 ）1．ほぼ毎回参加している
（　　）2．4 回に 3 回程度参加している
（　　）3．2 回に 1 回程度参加している
（　　）4．3 回に 1 回程度参加している
（　　）5．ほとんど参加していない

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

表１．研究会ごとの所属人数（複数回答含む）

研究会名	1年	2年	合計
エプロンシアター研究会	0	0	0
授業研究会	6	6	12
ふれあい遊び研究会	32	46	78
人形劇研究会	14	27	41
幼児美術研究会	6	10	16
外国文化研究会	4	7	11
パネルシアター研究会	24	11	35
幼児Canぷ研究会	33	26	59
心理ふれあい研究会	5	4	9
絵本研究会	6	3	9
手作りおもちゃ研究会	7	2	9
無所属	93	89	182

い研究会、手作りおもちゃ研究会、絵本研究会の順であった。また、複数の研究会を掛け持ちしている学生の存在も明らかになり、多い学生で３つの研究会を掛け持ちしていることが分かった。

（２）研究会所属有無と社会人基礎力の比較

今回の調査では、12の能力要素についてVASを用い調査を実施しそれぞれ評価した。また、その12の項目の中で、「１．主体性」「２．働きかけ力」「３．実行力」の平均値を「前に踏み出す力（アクション）」とし、「４．課題発見力」「５．計画力」「６．創造力」の平均値を「考え抜く力（シンキング）」、「７．発信力」「８．傾聴力」「９．柔軟性」「10．状況把握力」「11．規律性」「12．ストレスコントロール力」の平均値を「チームで働く力（チームワーク）」とし、それぞれ評価した。

表２．に示した通り、VASで数値化した社会人基礎力の12項目を研究会の「所属群」と「無所属群」に分けて比較すると、「10.状況把握力」と「11.規律性」以外の項目で「所属群」が「無

表２．研究会所属有無と社会人基礎力の比較

項目	所属群 n=230		無所属群 n=136		
	M	SD	M	SD	t Test
1.主体性	60.3	17.9	56.2	20.0	n.s.
2.働きかけ力	54.7 ＊	18.7	48.5	20.7	P＜0.05
3.実行力	58.4	17.5	56.6	20.5	n.s.
4.課題発見力	54.0	17.1	53.7	18.4	n.s.
5.計画力	53.1	17.9	51.9	20.6	n.s.
6.創造力	56.9	18.0	53.5	20.1	n.s.
7.発信力	50.8	18.9	47.3	20.5	n.s.
8.傾聴力	65.5	17.3	65.2	18.3	n.s.
9.柔軟性	63.6	17.5	63.3	18.2	n.s.
10.状況把握力	62.5	17.1	62.7	17.7	n.s.
11.規律性	73.2	16.9	73.8	17.8	n.s.
12.ストレスコントロール力	57.8	22.6	54.2	23.5	n.s.

表３．研究会所属有無と社会人基礎力の３つの力の比較

項目	所属群 n=230		無所属群 n=136		
	M	SD	M	SD	t Test
1.前に踏み出す力	57.8＊＊	17.4	53.8	20.7	P＜0.01
2.考え抜く力	54.7	14.6	53.1	19.7	n.s.
3.チームで働く力	62.2	17.9	61.1	20.1	n.s.

表４．研究会所属有無とディプロマポリシーの比較

項目	所属群 n=230		無所属群 n=136		
	M	SD	M	SD	t Test
1. 教育・保育に関する専門的な知識・実践的な技術を身につけている。	55.6	16.2	52.9	16.6	n.s.
2. 教育・保育に関する問題意識をもち、分析し考察する態度を身につけている。	56.5	15.5	55.9	16.3	n.s.
3. 教育・保育に必要な、子どもに共感する心が育っている。	68.6	16.2	66.7	17.6	n.s.
4. 教育・保育に関する専門性を生かし、積極的に社会参加する態度が認められる。	62.3	17.3	59.5	17.5	n.s.

所属群」を上回っており、「２．働きかけ力」において、「所属群」(54.7±18.7) が「無所属群」(48.5±20.7) に対し有意に高値を示した (P<0.05)。その他の項目に関しては両群間に統計的有意差は認められなかった。

また、表３．に示した通り、社会人基礎力の12項目から１～３の項目の力の平均値を「前に踏み出す力（アクション)」、４～６の項目の力の平均値を「考え抜く力（シンキング)」、７～12の項目の力の平均値を「チームで働く力(チームワーク)」の３つに分け、研究会の「所属群」と「無所属群」で比較したところ、１～３の項目の平均値の「前に踏み出す力（アクション)」において、「所属群」(57.8±17.4) が「無所属群」(53.8±20.7) に対し有意に高値を示した (P<0.01)。その他の項目においては「所属群」の値が上回っているものの、両群間に統計的有意差は認められなかった。

（３）研究会所属有無とディプロマポリシーの比較

今回の調査では、二科の４つのディプロマポリシー、「１．教育・保育に関する専門的な知識・実践的な技術を身につけている。」「２．教育・保育に関する問題意識をもち、分析し考察する態度を身につけている。」「３．教育・保育に必要な、子どもに共感する心が育っている。」「４．教育・保育に関する専門性を生かし、積極的に社会参加する態度が認められる。」に対して VAS を用いて調査を行った。

表４．で示した通り、VAS で数値化したディプロマポリシーの４つの項目すべてにおい

表５．学年別の研究会所属有無と社会人基礎力の比較

項目	1年生所属群 n=105		2年生所属群 n=108		1年生無所属群 n=64		2年生無所属群 n=72		
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	分散分析
1.主体性	61.2	17.4	60.9	18.0	57.0	14.9	55.5	23.6	n.s.
2.働きかけ力	53.8	19.0	53.9	18.8	50.3	19.0	46.9	22.1	n.s.
3.実行力	58.7	17.2	59.1	17.2	54.4	17.8	58.5	22.5	n.s.
4.課題発見力	52.6	17.5	52.8	17.4	55.5	16.1	52.1	20.1	n.s.
5.計画力	52.8	18.0	53.1	18.0	54.3	16.1	49.8	23.8	n.s.
6.創造力	56.7	18.1	57.1	18.0	55.6	16.9	51.7	22.4	n.s.
7.発信力	52.5	19.0	52.6	18.9	48.1	16.1	46.5	23.6	n.s.
8.傾聴力	67.0	17.0	67.3	17.1	67.0	16.0	63.6	20.1	n.s.
9.柔軟性	64.9	16.5	65.0	16.3	64.8	14.9	61.9	20.6	n.s.
10.状況把握力	63.3	16.5	63.3	16.5	64.7	13.7	61.0	20.4	n.s.
11.規律性	73.8	17.3	73.8	17.1	74.4	16.7	73.2	18.7	n.s.
12.ストレスコントロール力	59.0	21.3	59.1	21.2	52.8	20.8	55.4	25.6	n.s.

表６．学年別の研究会所属有無と社会人基礎力の３つの力の比較

項目	1年生所属群 n=105		2年生所属群 n=108		1年生無所属群 n=64		2年生無所属群 n=72		
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	分散分析
1.前に踏み出す力	57.9	18.0	58.0	18.1	53.9	17.7	53.6	23.2	n.s.
2.考え抜く力	54.0	17.9	54.3	17.9	55.1	16.6	51.2	22.1	n.s.
3.チームで働く力	63.4	18.7	63.5	19.1	60.3	18.5	60.3	21.6	n.s.

て「所属群」の値が上回っていたが、両群間に統計的有意差は認められなかった。

（４）学年別の研究会所属有無と社会人基礎力の比較

表５．で示した通り、学年別で研究会の所属有無で分け、それぞれと社会人基礎力の各項目と比較したがすべての項目において、統計的有意差は認められなかった。また、表６．で示した通り、学年別の研究会所属有無と社会人基礎力の３つの力をそれぞれの項目で比較したがすべての項目において、統計的有意差は認められなかった。

（５）学年別の研究会所属有無とディプロマポリシーの比較

図１．で示した通り二科で卒業までに身につけるべき能力として挙げている４つのディプロマポリシーの１つ目の「教育・保育に関する専門的な知識・実践的な技術を身につけている。」において、「１年生研究会所属群」と「１年生研究会無所属群」の間に有意な差が認められた。また、「２年生研究会所属群」と「１年生研究会無所属群」にも有意な差が認められた。その他の項目間では統計的有意差は認められなかった。

４．考察

近年、大学で学ぶ知識以外に働く力として身につけておくべき力が求められており、その一環として経済産業省が提案する「社会人基礎力」等がある。「社会人基礎力」は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として提唱されており、前述の12項目の能力要素と３つの能力によって構成されている。各大学において、身につけておくべき「社会人基礎力」の育成プログラムを検討しており、多くの大学で報告がなされている。本学では、「社会人基礎力」の育成プログラムの一環として「研究会活動」を実践している。この活動は30年以上前から実践しており、長きにわたって子どもに関する知識や技術の獲得およびそれらの実践の場として取り組まれてきた。し

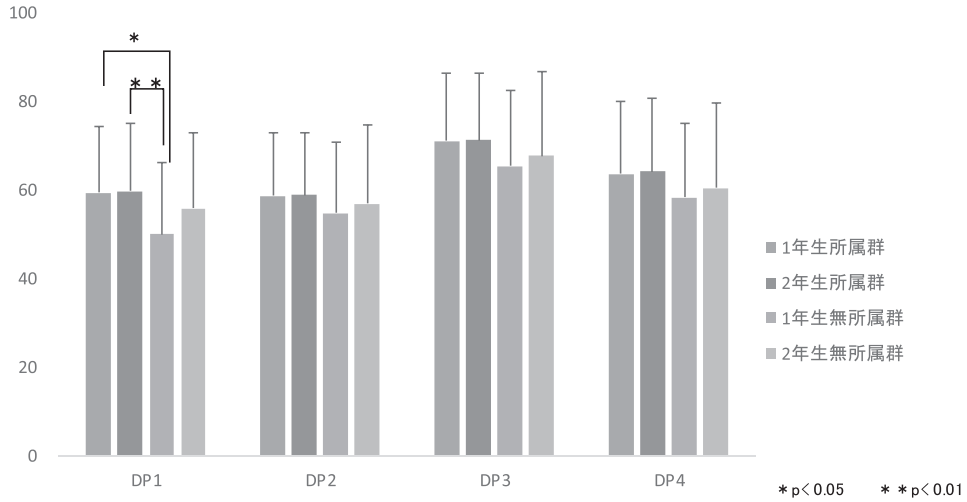

図１．学年別の研究会所属有無とディプロマポリシーの比較

かし、長年に渡る活動の実績はあるものの、活動をすることで得られる効果についての報告はほとんどない。本研究では研究会活動が社会人基礎力とディプロマポリシーに及ぼす調査研究を明らかにすることを目的に実施された。

本研究では、先ず研究会に所属する「所属群」と所属していない「無所属群」の２群に分け、各項目と比較した。社会人基礎力を構成する12項目のうち、「２．働きかけ力」においては「所属群」の値が「無所属群」の値を有意に上回っていることが明らかとなった。このことから、各研究会において様々な活動が行われており、その中で他人に何かを頼むことや、リーダーシップを発揮することや、交渉事や協力・提携をもちかけることを多く経験していき「２．働きかけ力」が身に付いていくのであろうと推察できる。その他にも、両群間に有意な差は見られなかったが「１．主体性」、「３．実行力」、「６．創造力」、「７．発信力」においても「所属群」が高値を示していた。研究会活動を実践していく中で、個人または集団で様々なことにおいて指導教員に指示されるのではなく主体的に考え、行動していくことでこれらの力も自然と身に付いていくのではないかと推察される。ディプロマポリシー尺度に関する比較の結果では、統計的有意差は見られなかったがすべての項目において「所属群」の値が「無所属群」を上回っていた。その中でも、「４．教育・保育に関する専門性を生かし、積極的に社会参加する態度が認められる。」と「１．教育・保育に関する専門的な知識・実践的な技術を身につけている。」においては約３ポイント程度「所属群」が「無所属群」を上回っており、研究会活動を継続的に実施することでこのような教育効果も見られるのではないかという見込みを持つことができた。

次に、学年ごとに研究会所属群と無所属群に分け、それぞれの項目を比較した。社会人基礎力に関する12項目と３つの力との比較では有意な差は認められなかったが、ディプロマポリシーの「教育・保育に関する専門的な知識・実践的な技術を身につけている。」において「１年生の研究会無所属群」との間で有意な差が認められた。この結果は、「研究会」に所属することで、様々な教育や保育に関する専門的な知識や技術を獲得し、それらが身に付いている裏付けになるのではないかと推察され、「研究会」に所属することは有益であるといっても過言ではない。

本研究は、研究会活動が社会人基礎力とディプロマポリシーに及ぼす影響について明らかにすることができた。しかし、研究会活動のどのような活動がそれぞれの項目に対しどのように影響を及ぼし、さらには教育効果を及ぼし変化

を与えていることまでは明らかにすることはできなかった。今後は継続的に調査を実施し、これらの項目に対して影響を及ぼしている活動を明らかにし、その活動を持続していくことが望まれる。

参考文献

経済産業省（2006：社会人基礎力）
（http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/）
石道峰典，西脇雅人，中村友浩，選択科目の体育実技授業を履修する大学生の社会人基礎力の特徴について，大学体育研究，2015, 37：1-10
田島祐奈，岩瀧大樹，山﨑洋史，女子大学生における進路選択に対する自己効力および社会人基礎力の研究，昭和女子大学人間社会学部紀要，2016, No. 904, 10-20